

資料 1

平成 2 8 年度

第一回森林環境保全基金運営委員会

～平成 2 7 年度森林環境税活用事業評価シート～

日時：平成 2 8 年 6 月 2 3 日 (木) 9 : 3 0 ~ 1 2 : 0 0

場所：高知共済会館「藤」

高知県林業環境政策課

## 目次

1. 公益林保全整備事業(木材増産推進課) . . . . . P1
2. みどりの環境整備支援事業(木材増産推進課) . . . . . P3
3. シカ捕獲推進事業(鳥獣対策課) . . . . . P5
4. 希少野生植物食害対策事業(環境共生課) . . . . . P7
5. 環境学習推進事業(生涯学習課) . . . . . P9
6. 高校生森林環境理解事業(高等学校課) . . . . . P11
7. 高校生後継者育成事業(高等学校課) . . . . . P13
8. 山の学習支援事業(林業環境政策課) . . . . . P15
9. 森づくりへの理解と参加を促す広報事業(林業環境政策課) . . . . . P17
10. こうち山の日推進事業(林業環境政策課) . . . . . P21
11. 運営委員会等開催費(林業環境政策課) . . . . . P25
12. 木の香るまちづくり推進事業(木材利用推進課) . . . . . P27
13. 森林保全作業安全研修委託事業(林業環境政策課) . . . . . P29

平成27年度 森林環境税活用事業事業評価シート① (当初・中間・実績)

1

担当課・係名	木材増産推進課
担当者	出口 和樹
内線	3146

① 事業名	・細目事業名：緊急間伐総合支援事業 ・細々目事業名：緊急間伐総合支援事業 ・当該事業名：公益林保全整備事業
大区分	森林環境の保全を進める事業
小区分	森林整備

事業費の推移		H23 (決算額)	H24 (決算額)	H25 (決算額)	H26 (決算額)	H27 (決算額)
総事業費 (千円)		0	142,426	98,025	35,983	37,630
② 財源内訳	森林環境税		142,426	98,025	35,983	37,630
	一般財源					
	その他					

③ 主な業務内容	Ⅲ～ⅩⅡ 齢級の保育間伐による森林整備。 当該事業にかかる補助金交付申請、交付決定、検査、確定及び執行管理等の事務。 関係機関へのPR。
----------	--

⑦ 事業内容 (手段)

- 交付対象の森林  
Ⅲ～ⅩⅡ 齢級の保育間伐による森林整備
- 交付の条件  
保安林又は市町村森林整備計画に規定する公益的機能別施業森林において集約化が図れず、国庫補助事業の対象とならない森林  
上記の要件を満たしたものについては、森林所有者の負担を軽減することにより、森林整備の推進を図る。  
また、間伐の推進について、市町村広報誌への掲載依頼や林業関係機関誌等へ掲載するとともに、森林環境税のPRを図るため、さんSUN高知への掲載や関係機関等に対してチラシ、パンフレットを配布する。

【平成27年度計画量】 実施面積 490ha

【補助の流れ】

```

    graph TD
      A[高知県] -- 補助 --> B[市町村]
      B -- 補助 --> C[森林組合等事業体、森林所有者]
    
```

④ 現況と課題 (これまでの経過や事業実施の背景)	事業開始年度	平成24年度
<p>森林の多面的な機能を持続的に発揮させるため、未整備森林等における間伐を積極的に実施するとともに、森林所有者の負担を軽減を図るよう取り組んでいる。 平成21年12月に国が「森林・林業再生プラン」を策定し、10年後の木材自給率50%以上を目指すこととされた。このため、造林事業は、平成23年度の制度改正に伴い、間伐の採択要件として施業の集約化及び間伐した材を1ha当たり10m<sup>3</sup>以上搬出することが必須条件となった。 また、森林整備加速化・林業再生事業については、平成23年度補正予算において、東日本大震災の復興に必要な木材を安定供給する体制を構築する目的で、期間の延長が決定されたが、当該事業の目的が造林事業とほぼ同様の条件となり、国庫補助事業の全てが、搬出間伐にシフトした内容となった。 しかし、政権交代や林業関係団体等の強い要望などにより、平成25年度から一定の条件付きではあるが、造林事業で保育間伐単独での採択が可能となった。また、平成26年度から7齢級までの保育間伐が復活された。 このため、森林環境税を効率的に活用するため、平成27年度以降も造林事業への誘導を進めていく。 当事業は、国庫補助事業で採択されない森林所有者のセーフティネットとして要望も強く、事業規模等については検討を図っていく。</p>		
⑤ 目的とねらい (成果)		
<p>(本事業の目的) 水源かん養機能等の公益的機能が低い人工林の保育間伐を推進することで、荒廃森林の発生を防止し、森林の持つ公益的機能が効果的に発揮されるよう森林の整備を図る。</p> <p>(意図すべき成果) 森林吸収源効果の高い森林の整備及び荒廃森林への移行を防止し、将来にわたり健全な森づくりを推進する。</p>		
⑥ 対象 (誰、何を対象とするのか)		
<ul style="list-style-type: none"> <li>●森林所有者</li> <li>●保安林又は市町村森林整備計画に規定する公益的機能別施業森林であり、かつ、集約化が図れず国庫補助事業の対象とならない、Ⅲ～ⅩⅡ 齢級の人工林の保育間伐</li> </ul>		

# 平成27年度 森林環境税活用事業評価シート②

(当初・中間・実績)

担当課・係名	木材増産推進課
担当者	出口 和樹
内線	3146

1

指標の種類	指標名/算定式	H27目標値	H27中間値	H27実績値	H26実績
⑧ I 活動指標 (アウトプット)	事業実施対象件数	327	115	297	270
	算定式				
	算定式				
II 成果指標 (アウトカム)	森林整備面積 (ha)	490	172	470	450
	算定式				
	算定式				
III 効率指標 (事業コスト)	1ha当たりの事業コスト (間伐)	80,000	80,000	80,000	80,000
	算定式				
	算定式				

評価の項目	評価の結果	説明
I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input checked="" type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	
⑨ II 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input checked="" type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	目標に対して88%の実績であったことから、当事業の必要性があらためて確認できた。
III 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input checked="" type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	1ha当たりの事業コストはここ数年横ばいであり、それに見合う補助単価を設定できている。

総合評価	説明 (担当課記入欄)
⑩ <input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	当事業は平成24年度創設以来、概ね90%の達成率を維持しており、県民の需要と予算のマッチングが極めて良好であると言える。 今後においても継続していくべき事業であると考えている。

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等 (委員記入欄)
⑪ <input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続	

平成27年度 森林環境税活用事業事業評価シート① (当初・中間 **実績**)

担当課・係名	木材増産推進課
担当者	森本 大貴
内線	4602

2

① 事業名	・細目事業名：みどりの環境整備支援事業 ・細々目事業名：みどりの環境整備支援事業 ・当該事業名：みどりの環境整備支援事業
大区分	森林環境の保全を進める事業
小区分	森林整備

事業費の推移		H23 (決算額)	H24 (決算額)	H25 (決算額)	H26 (決算額)	H27 (決算額)
総事業費 (千円)		19,297	26,357	8,534	30,092	38,973
② 財源内訳	森林環境税	19,297	26,357	8,534	30,092	38,973
	一般財源					
	その他					

③ 主な業務内容	人工林(Ⅲ～Ⅸ齢級)の除・間伐による森林整備。 造林事業の採択を受けた事業にかかる交付金交付申請、交付決定、検査、確定及び執行管理等の事務。
----------	---

⑦ 事業内容 (手段)

- 交付対象の森林 人工林(Ⅲ～Ⅸ齢級)の除・間伐による森林整備
- 交付の条件 造林事業の採択を受けた事業

上記の要件を満たしたものについては、各事業と併用して補助し、森林所有者の負担を軽減することにより、森林整備の推進を図る。  
また、森林環境税のPRを図るために、申請者に対してチラシ、パンフレットを配布する。

【平成27年度計画量】 実施面積 1,225ha

**【補助の流れ】**

```

    graph TD
      A[高知県] -- 補助 --> B[森林組合等事業体、森林所有者]
    
```

④ 現況と課題 (これまでの経過や事業実施の背景)	事業開始年度 平成19年度
<p>森林吸収源対策に向けて、除・間伐を実施するとともに、森林所有者の負担を軽減することで持続可能な森林づくりに取り組んでいる。しかし、平成21年12月に国が「森林・林業再生プラン」を策定して、10年後の木材自給率50%以上を目指すこととされた。このため、造林事業は、補助採択要件に施業の集約化と間伐した材を一定量搬出することが付され、従来、採択してきた保育間伐については、平成23年度から補助対象外となる森林が出てきたことなどにより、当事業が活用され難い状況となってきたが、平成25年度から一定の条件付きで保育間伐が補助対象として追加された。さらに、平成26年度から7齢級まで保育間伐が補助対象として復活された。</p> <p>このため、除・間伐に係る森林所有者の負担軽減を図るため、平成26年度から当事業による保育間伐へ嵩上げ支援を復活させるとともに、森林資源の構成齢級が事業発足当時と比べ上がってきていることから、補助対象齢級の上限を引き上げを行った。</p> <p>この事業は、平成19年度から事業を開始し、PR活動も実施してきたことから、森林所有者からの要望も強い。</p>	
⑤ (本事業の目的)	CO2吸収効果の高い人工林の間伐及び自助努力によって適切な森林整備が期待できない森林の間伐を促進することで、荒廃森林の発生を防止し、森林の持つ公益的機能が効果的に発揮されるよう森林の整備を図る。
⑤ (意図すべき成果)	森林吸収源効果の高い森林の整備及び荒廃森林への移行を防止し、将来にわたり健全な森づくりを推進する。
⑥ 対象 (誰、何を対象とするのか)	●森林所有者 ●造林事業、人工林(Ⅲ～Ⅸ齢級)の除・間伐

平成27年度 森林環境税活用事業評価シート②

(当初・中間 **実績**)

2

担当課・係名	木材増産推進課
担当者	森本 大貴
内線	4602

指標の種類	指標名/算定式	H27目標値	H27中間値	H27実績値	H26実績値
I 活動指標 (アウトプット)	事業実施対象件数	869	333	547	573
	算定式				
	算定式				
	算定式				
II 成果指標 (アウトカム)	森林整備面積 (ha)	1,565	600	1226	1,015
	算定式				
	算定式				
	算定式				
III 効率指標 (事業コスト)	1ha当たり事業コスト	(除伐) 54,000円		(除伐) 54,000円	(除伐) 54,000円
	算定式 事業費÷事業実施面積 円				
	1ha当たり事業コスト	(保育間伐A) 35,000円		(保育間伐A) 35,000円	(保育間伐A) 35,000円
	算定式 事業費÷事業実施面積 円	(保育間伐B) 30,000円 (保育間伐C) 23,000円		(保育間伐B) 30,000円 (保育間伐C) 23,000円	(保育間伐B) 23,000円 (保育間伐C) 23,000円

評価の項目	評価の結果	説明
I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input checked="" type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	当該事業は、造林補助事業への 高上事業であり事業を円滑に遂行 できる事業体が実施主体となっ ている。 事業目的を効率的に達成する観 点から判断すれば、妥当であると 考える。
II 成果 (意図した成果は上 がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている <input checked="" type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	目標値に対しては予算ベースで 90%の実績を達成しているた め、概ね得られたと考えている。
III 効率性 (コスト面からみた 効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い <input checked="" type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	ヘクタール当たりの事業コスト は、前年度から変わっておらず、 造林事業と合わせて約90%の補助 率となっている。 木材販売収入が期待できない、 保育時期の費用負担を支援するた めには、適正な単価設定であると 考えている。

総合評価	説明(担当課記入欄)
<input type="radio"/> A <input checked="" type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	当事業は造林事業への高上事業で、造林事業と合わせて約90%の補助率のなっ ている。 造林事業申請者の約9割が当事業を活用し、木材販売収入が得られない保育時期 の森林整備費用を補填している。 森林整備事業は搬出間伐にシフトしつつあるが、保育作業の遅れている森林も多 くあり森林所有者等の継続要望が強い。 事業目的である荒廃森林の発生を防止し、森林の持つ公益的機能が効果的に発揮 できる森林整備を図るためには、当事業の継続が不可欠である。

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等(委員記入欄)
<input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続	

平成27年度 森林環境税活用事業事業評価シート① (当初・中間(実績))

担当課・係名	鳥獣対策課
担当者	宮崎 信一
内線	9042

3

① 事業名	・細目事業名：鳥獣被害対策事業費 ・細々目事業名：捕獲対策事業費 ・当該事業名：シカ捕獲推進事業
大区分	森林環境の保全を進める事業
小区分	シカ被害対策

③ 主な業務内容	県内の山林等に広範囲に生息するシカの個体数を調整するため新規狩猟者及び被害集落にくくりわなを配付し、捕獲を推進する。 配付の際には捕獲技術講習会を実施し、捕獲技術の向上を図る。
----------	---

④	現況と課題(これまでの経過や事業実施の背景)	事業開始年度	平成25年度
	シカの個体数増や生息域が拡大し、特に県の東部と西部で食害による農林業被害や自然植生被害が深刻化している。このため、シカの個体数を調整することが必要である。		
⑤	目的とねらい(成果)	(本事業の目的) シカの個体数の増加や生息域の拡大によって、シカ被害を受けている集落での捕獲に取り組む。 また、新規狩猟者にくくりわなを配付することでシカの捕獲数の増加と新規狩猟者の確保を図る。	
	(意図すべき効果)	シカの個体数を抑制することで、農林業被害や自然植生被害を軽減させる。	
⑥	対象(誰、何を対象とするのか)		

②	事業費の推移	H23(決算額)	H24(決算額)	H25(決算額)	H26(決算額)	H27(決算額)
	総事業費(千円)			24,980	20,560	19,971
財源内訳	森林環境税			24,980	20,560	19,971
	一般財源					
	その他					

事業内容(手段)	
市町村を通じて、シカの被害を受けている集落にくくりわなを配付する。 また、新規狩猟者にくくりわなを配付して即戦力化と担い手の確保を図る。	
配付の際には捕獲技術講習会を実施して捕獲技術の向上を図る。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>平成27年度配付予定数：3,800個。 (内訳) <ul style="list-style-type: none"> <li>被害集落：3,210個配付(26市町村、668集落へ配付)</li> <li>新規狩猟者：590個配付(390人に配付) (H26～H27新規狩猟者対象)</li> </ul> </li> </ul>	
⑦	<p>※経過</p> <p>①5月 配付希望集落要望調査 ②8月26日 物品購入審査 ③9月3日 物品購入契約 ④9月～12月17日 くくりわな配付</p> <p>【新規】・捕獲技術講習会：25回実施 ★被害集落配付：20回/25市町村対象 参加者439名 ★新規狩猟者配付：5回/32市町村対象 参加者148名(ブロックごと)</p> <p>※経過</p> <p>①9月28日～11月7日 被害集落配付：20回/25市町村対象 ②12月4日～12月17日 新規狩猟者配付：5回/32市町村対象</p>

# 平成27年度 森林環境税活用事業評価シート②

(当初・中間・**実績**)

担当課・係名	鳥獣対策課
担当者	宮崎信一
内線	9042

3

指標の種類	指標名/算定式	H27目標値	H27中間値	H27実績値	H26実績値
⑧ I 活動指標 (アウトプット)	くくりわな配付数(個)	3,800	250	3,800	4,000
	算定式				
	算定式				
II 成果指標 (アウトカム)	平成27年度農林業被害軽減(千円)	26,984	平成28年度に算出	集計中	24,863 (H24-H26)
	算定式 $\frac{25年度農林業被害額 - 平成27年度農林業目標被害額}{134,916 - 107,932} = 26,984$				
	算定式				
III 効率指標 (事業コスト)	被害額軽減率	80%	平成28年度に算出	集計中	83% (H26/H24)
	算定式 $\frac{平成27年度目標農林業被害額}{平成25年度農林業被害額} = 107,932 \div 134,916 = 80\%$				
	算定式				

評価の項目	評価の結果	説明
I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input checked="" type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	シカの生息数の増加による農林被害が深刻化しているため、里山において集落ぐるみでシカの個体数を減少させるため、集落及び新規わな免許取得者にわなの配付を行うと共に、捕獲技術講習会を実施した。
⑨ II 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている <input checked="" type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	集計中
III 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い <input checked="" type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	集計中

総合評価	説明(担当課記入欄)
<input type="radio"/> A <input checked="" type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	成果指標や効率指標となる平成27年度の被害額について集計中

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等(委員記入欄)
<input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続	





# 平成27年度 森林環境税活用事業評価シート②

(当初・中間・実績)

担当課・係名	環境共生課(自然公園)
担当者	久保
内線	4842

4

指標の種類	指標名/算定式	H27目標値	H27中間値	H27実績値	H26実績値
⑧ I 活動指標 (アウトプット)	食害拡大地域の現地調査箇所数	10	7	8	9
	算定式 調査箇所数				
	防護柵設置(柵延長距離)	310	200	195	380
	算定式 柵延長距離(m)				
II 成果指標 (アウトカム)	植生回復状況(各調査地点1m当りの植被率%)の推移	70%	84%	84%	87%
	算定式 $\frac{\text{植被率}(\%) \times \text{柵内} \geq \text{柵外の方形区数} + \text{柵内方形区調査(H26以前設置)数}(\%)}{\text{柵内方形区調査(H26以前設置)数}(\%)}$				
	防護柵新設により保護される希少植物優先度点数	2箇所 21	1箇所 10	1箇所 10	3箇所 48
	算定式 高知県レッドリスト・環境省レッドリスト・高知県固有評価のシカ別配点による点数				
III 効率指標 (事業コスト)	防護柵1m設置に係る経費	13,300	19,481	19,955	10,161
	算定式 $\frac{\text{事業費(調査+設置)} \div \text{新規柵延長}}$				
	設置済防護柵1箇所当りモニタリング経費	139,500	145,800	145,800	160,232
	算定式 $\frac{\text{事業費(モニタリング調査)} \div \text{柵の点検箇所(H26以前設置)数}}$				

評価の項目	評価の結果	説明
⑨ I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である <input checked="" type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	希少野生植物をシカの食害から守る目的で、①県内の植物調査、②植物保護の防護柵設置、③設置後のモニタリング調査を専門家に委託した。(牧野植物園、森林組合等) ①調査→②設置→③モニタリングと各段階の調査結果を踏まえて前年度の計画に基づき実施した。 今年度は高知農業高校の授業の一環で防護柵設置の一部を実施することができた。
II 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている <input checked="" type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	既設柵のモニタリング調査で、柵内と柵外の植生を比較した結果、柵内の方形区が植被率、成長高、出現数とも増加している。希少植物保護の観点から有効な事業結果であると判断できる。
III 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い <input checked="" type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	防護柵1箇所の経費は労務賃金の上昇等とヘリコプター資材運搬により、当初計画より高価となっている。モニタリング調査費については、大規模な修繕を行ったため経費が必要となった。

総合評価	説明(担当課記入欄)
⑩	<input type="radio"/> A <input checked="" type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D
	ニホンジカによる食害から、絶滅危惧種(レッドリスト)である希少植物を保護してきた。植生調査、防護柵設置、モニタリング調査を実施してきたことにより、少しずつではあるが絶滅危惧種の植生回復が見られることから、種の保全や多様性の観点からも高く評価でき、今後も区域拡大、継続していくべき事業である。

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等(委員記入欄)
⑪	<input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続

平成27年度 森林環境税活用事業事業評価シート① (当初・中間・実績)

担当課・係名	生涯学習課
担当者	倉松 新
内線	4629

5

①	事業名	・細目事業名：環境学習推進事業費 ・細々目事業名：環境学習推進事業 ・当該事業名：環境学習推進事業 ：体験活動推進事業
	大区分	県民のみなさんの森林への理解と関わりを深め広げる事業
	小区分	森林環境教育

③	主な業務内容	・指導者養成研修委託にかかる事務 ・体験活動推進事業に係る事務
---	--------	------------------------------------

④	現況と課題(これまでの経過や事業実施の背景)	事業開始年度	平成23年度
	平成22年度に開催した「全国生涯学習フォーラム高知大会」における「環境フォーラム」での提言を受け、NPO等の団体や学校、社会教育施設が連携した自然体験活動や環境学習を推進する。そのためには、森林率日本一の本県の自然を生かした自然体験活動や環境教育が行えるよう、指導者研修をはじめとする人材の育成が重要である。 また、子どもだけでなく大人も含めみんなが森を大切にし、自然と共生する社会の実現に向けて、県民の意識の向上を図ることが必要である。		

⑤	目的とねらい(成果)
	◇環境学習推進事業 自然体験活動や環境学習を推進するために、体験活動等に関する情報の提供、指導者の養成に取り組む。 ○指導者養成研修等委託業務(自然体験インストラクター) 幼少期から青少年等の幅広い年齢層を対象とした自然体験活動プログラムの企画・実施ができる指導者の養成及び指導力向上のための研修会を実施する。 また、研修会では、学校教育に関する理解を深め、学校教育と連携した取組を提案できる指導者の養成を目指すとともに、研修会を通じて参加者どうしが交流し指導者として自らのスキルや知識を深化させる機会とする。 ○情報共有・情報提供 高知体験学習ガイドポータルサイトにおいて、自然体験・環境学習に関する情報(イベント、各種団体、場所等)を県民に広く提供するとともに、青少年の体験活動の意義や効果について啓発を図る。 あわせて、自然体験活動指導者に対し、安全管理や活動プログラム等に関する情報を提供することにより支援を行う。
	◇体験活動推進事業 子どもの体験活動の機会を増やすため、身近な場所で、豊かな活動体験を提供できる指導者を地域の青少年育成団体等に派遣する。 ・親子を対象とすることで、保護者に対して体験活動の在り方を啓発する。 ・既に体験活動を行っている団体においても、新たな分野の活動が提供されることで、活動の幅が広がるとともに、団体と指導者の連携が促進される。 ・指導者養成研修等の研修を修了した指導者の活動の場が広がり、指導者自身の指導スキルが向上が期待できる。

⑥	対象(誰、何を対象とするのか)
	○指導者養成研修等委託業務(自然体験インストラクター)： 自然体験活動の指導に関する研修の受講経験者、自然体験活動や環境学習の指導及び指導補助の経験者 ○体験活動推進事業：子ども会、ボーイスカウト、スポーツ少年団、県内小中PTA(親子行事等)

②	事業費の推移	H23(決算額)	H24(決算額)	H25(決算額)	H26(決算額)	H27(予算額)
	総事業費(千円)	1,953	1,522	1,788	616	1,088
	財源内訳					
	森林環境税	1,953	1,522	1,788	616	1,088
	一般財源					
	その他					

⑦	事業内容(手段)
	○指導者養成研修等委託業務(自然体験インストラクター) 単独随意契約 自然体験活動や環境学習の企画・運営、各団体間の連絡調整を行う指導者の養成及び指導力向上を目指した研修会の実施。 研修事業の企画と実施業務を委託する。 安全管理や自然体験活動の企画・運営に関する知識技能等22.5時間の研修を実施する。
	○自然体験活動指導者研修の修了者が、スキルアップを図るために森林保全ボランティア団体の実施する間伐体験を活用する。なお、林業振興・環境部林業環境政策課と連携して情報提供を受けるものとする。 また、自然体験インストラクターの資格取得に必要な演習について、青少年教育施設の主催事業を紹介する。
	【新規】○体験活動推進事業 自然体験活動指導者研修の修了者をはじめ自然体験プログラムを提供できる経験豊かな指導者を地域の少年団体などへ派遣した。 ・H27県内 小学校：3校 計4回 派遣指導者：11名 参加生徒数：250名

平成27年度 森林環境税活用事業評価シート②

(当初・中間・実績)

担当課・係名	生涯学習課
担当者	倉松 新
内線	4629

5

指標の種類	指標名/算定式	H27目標値	H27中間値	H27実績値	H26実績値
① 活動指標 (アウトプット)	自然体験活動指導者研修実施数	1	/	1	1
	算定式 1回				
	体験活動派遣数	10	3	4	-
	算定式 10箇所				
② 成果指標 (アウトカム)	自然体験活動インストラクター研修参加者数	24	/	11	21
	算定式 24人				
	子どもの参加者数	100	142	250	-
	算定式 10人×10箇所				
③ 効率指標 (事業コスト)	自然体験活動インストラクター研修参加者1人あたりのコスト	16,458	/	10,282	18,510
	算定式 自然体験活動インストラクター研修事業費÷参加者数				
	子どもの参加者1人あたりのコスト	2,000	296	452	-
	算定式 講師謝金等報償費÷子どもの参加者数				

評価の項目	評価の結果	説明
④ ① 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である <input checked="" type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	「指導者養成研修等委託業務」インストラクター研修は県内の自然体験活動や環境学習に係わる38団体から構成され、多様な団体との連携協力による研修企画が実施可能である高知自然学校連絡会に業務を委託した。
④ ② 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている <input checked="" type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	「指導者養成研修等委託業務」リーダー研修は、委託業務は中止したが、代替事業において11名の参加があり、指導者の増加と資質向上が図れた。参加者からは「各団体がこういう機会を通して交流できるというのは、輪や技(知識)が広まるということなので、続けてほしい」等、肯定的な感想が多くみられた。
④ ③ 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い <input checked="" type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	「体験活動推進事業」自然体験活動指導者研修の修了者をはじめ自然体験プログラムを提供できる経験豊かな指導者を地域の少年団体などへ派遣した。 ・H27県内小学校：3校 計4回 派遣指導者：11名 参加生徒数：250名 ※講師によっては謝金を辞退する者もあり、数字だけでは表れていない部分がある。

総合評価	説明(担当課記入欄)
④ ○ A	○「環境学習推進事業」指導者研修等参加者の目標は24名であったのに対し、参加したのは、11名であった。 今後、指導者の養成をとおり、体験活動の重要性について啓発を行い自然体験活動が提供できる指導者の増員や各関係団体との連携を図ることにより、子どもたちの体験活動の機会を増やしていく必要がある。 ○「体験活動推進事業」体験活動を希望する団体に指導者を派遣し、体験活動等を行うことで、大人や子どもたちに体験活動の素晴らしさを啓発すること等を目標にとしたが、目標値が届かなかった。ホームページ掲載や、情報を提供することで、多くの子どもたちに、普段の授業ではできない体験活動を体験できるよう周知する。
④ ● B	
④ ○ C	
④ ○ D	

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等(委員記入欄)
④ ○ 現状のまま継続 ○ 事業を拡大 ○ 事業を縮小 ○ 休廃止を検討 ○ 改善のうえ継続	

# 平成27年度 森林環境税活用事業事業評価シート①

(当初・中間・実績)

担当課・係名	高等学校課
担当者	中島
内線	4851

6

①	事業名	<ul style="list-style-type: none"> <li>細目事業名：森林環境保全事業</li> <li>細々目事業名：高校生森林環境理解事業</li> <li>当該事業名：高校生森林環境理解事業</li> </ul>
	大区分	県民のみなさんの森林への理解と関わりを深め広げる事業
	小区分	森林環境教育

③	主な業務内容	河川の水質検査や間伐材利用をとおして森林環境の保全を理解し支援できる人材の育成を図り、将来の森林の保全に具体的に取り組んでいく姿勢を育成する。
---	--------	---

④	現況と課題（これまでの経過や事業実施の背景）	事業開始年度	平成20年度
	体験を重視した学習活動により、森林の重要性・環境問題について生徒自ら考えることが出来るようになり、学習内容を発表することで社会性の伸長を目指すキャリア教育にもつながっている。課題としては、活動が多岐に渡るため、時間的余裕が少ない。教科教育との兼ね合いも含めより効果的な環境教育を推進していく必要がある。		

⑤	目的とねらい（成果）	四万十川流域の貴重な動植物の生態の学習及び水質調査、四万十川源流域で独特の森林植生の学習や、森林の管理が下層植生にどのような影響を与えるかの調査、森林総合研究所、牧野植物園でのフィールドワークをとおして森・川・海と結ぶ生態系の成り立ちについて学ぶ。 学校演習林などから搬出した間伐材を利用し、木材加工製品を製作し地域の保育園等に配布し将来の木材需要の向上を図る。
	⑥	対象（誰、何を対象とするのか）

②	事業費の推移	H23(決算額)	H24(決算額)	H25(決算額)	H26(決算額)	H27(決算額)	
	総事業費（千円）	985	1,050	884	863	634	
	財源内訳	森林環境税	985	1,050	884	863	634
		一般財源					
	その他						

⑦	事業内容（手段）	学校での授業や現地でのフィールドワーク等 学校演習林などから搬出した間伐材を利用し、木材加工製品の製作を行い地域への配布 小学生・保護者対象の木工教室の開催
	実施校	<ul style="list-style-type: none"> <li>四万十高等学校</li> <li>高知北高等学校</li> <li>幡多農業高等学校</li> </ul>

平成27年度 森林環境税活用事業評価シート②

(当初・中間・実績)

担当課・係名	高等学校課
担当者	中島
内線	4851

6

指標の種類	指標名/算定式	H27目標値	H27中間値	H27実績値	H26実績値
⑧ I 活動指標 (アウトプット)	取り組み回数	30	15	53	81
	算定式				
	算定式				
	算定式				
II 成果指標 (アウトカム)	取り組み回数	30	15	53	81
	算定式				
	算定式				
	算定式				
III 効率指標 (事業コスト)	取り組み1回あたりに要する経費	24,700	23,344	11,954	10,645
	算定式				
	算定式				
	算定式				

評価の項目	評価の結果	説明
⑨ I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input checked="" type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	森林環境理解に関する事業は数種類の取組があるが、目標数値以上の取組ができた。
II 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input checked="" type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	各事業によりその内容が大きく異なり、高校生が直接体験する事業や高校生が作成したものを配布したり、木材の活用方法を指導するなど、各事業によって参加人数の把握が難しいため実施事業回数で成果を見ているが、事業報告の参加者の状況を見ても、その成果は上がっていると考えられる。
III 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input checked="" type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	参加人数を正確に把握することは難しいため、事業数で算出しているが、事業によっては50人を超える事業もあり、全体としては実施効果は高いと判断する。

総合評価	説明 (担当課記入欄)
⑩ <input checked="" type="radio"/> A  <input type="radio"/> B  <input type="radio"/> C  <input type="radio"/> D	森林環境について、高校生をはじめ、園児・児童などと幅広く学習する機会が持てたことは高知県の森林環境を考え、活動することのできる人材を育成する大きな場となった。 また、身近な環境を調査したり、観察することにより、高知県の自然環境を深く理解し、すばらしい高知の環境を広める良き理解者の育成につながっていることから、本事業の成果は十分上がっていると考えられる。

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等 (委員記入欄)
⑪ <input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続	

# 平成27年度 森林環境税活用事業事業評価シート①

(当初・中間・実績)

担当課・係名	高等学校課
担当者	中島
内線	4851

7

① 事業名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・細目事業名：森林環境保全事業</li> <li>・細々目事業名：高校生後継者育成事業</li> <li>・当該事業名：高校生後継者育成事業</li> </ul>
大区分	県民のみなさんの森林への理解と関わりを深め広げる事業
小区分	森林環境教育

事業費の推移		H23 (決算額)	H24 (決算額)	H25 (決算額)	H26 (決算額)	H27 (決算額)
総事業費 (千円)		118	191	401	219	354
② 財源内訳	森林環境税	118	191	182	219	354
	一般財源					
	その他					

③ 主な業務内容	林業関係学科に学ぶ生徒を対象に、林業に関する資格取得を推進し、将来の林業を担う人材の育成を図る。
----------	--

⑦	事業内容 (手段)
	車両系建設機械運転技能講習の受講 (28人) 可搬式林業機械研修の受講 (12人)  実施校 <ul style="list-style-type: none"> <li>・高知農業高等学校 (車両9人、可搬6人)</li> <li>・幡多農業高等学校 (車両9人、可搬0人)</li> <li>・窪川高等学校 (新規追加) (車両5人、可搬5人)</li> <li>・橋原高等学校 (新規追加) (車両5人、可搬1人)</li> </ul>

④	現況と課題 (これまでの経過や事業実施の背景)	事業開始年度	平成20年度
	林業の現場で幅広く使用される車両系建設機械の種類や構造、操作について理解を深め、始業前点検から作業終了後の保管まで安全かつ確実に実行できる技能を習得させる。課題としては講習により、安全な機械の運転方法を学ぶことが出来たが、限られた時間の中では実践的な運転技能の習得までは難しい。		

⑤	目的とねらい (成果)
	将来の林業従事予定者を育て、資格取得後の技術の向上、継続的な環境教育・キャリア教育に結びつける。

⑥	対象 (誰、何を対象とするのか)
	資格 (生徒)

平成27年度 森林環境税活用事業評価シート②

(当初・中間・実績)

担当課・係名	高等学校課
担当者	中島
内線	4851

7

指標の種類	指標名/算定式	H27目標値	H27中間値	H27実績値	H26実績値
⑧ I 活動指標 (アウトプット)	取り組み回数	8	7	7	3
	算定式				
	算定式				
	算定式				
II 成果指標 (アウトカム)	参加人数	81	40	40	48
	算定式				
	算定式				
	算定式				
III 効率指標 (事業コスト)	参加者1人あたりに要する経費	6,754	8,857	8,857	4,563
	算定式 事業費÷参加人数				
	算定式				
	算定式				

評価の項目	評価の結果	説明
I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input checked="" type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	森林関係学科における実施であり、妥当と考える。
⑨ II 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input checked="" type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	資格取得の成果としては十分な結果が出ている。
III 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input checked="" type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	林業関係への従事者育成は大変重要であり、後継者育成の観点からも効率性は高いといえる。

総合評価	説明 (担当課記入欄)
⑩ <input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	参加人数は年によって変動するが、本年度は可搬式林業機械及び車両系建設機械の資格取得に計40名の参加があり、参加者全員が資格を取得し将来の林業従事者としての資質を高めることができた。 行事や部活動等との日程が合わず、目標値には届かなかったが、40名の資格取得者があり、後継者育成の観点からいえば高く評価ができる。 平成27年度卒業生の進路先としては、林業関係の会社へ2名が就職し、日本大学生物資源科学部へ1名、高知大学農林海洋科学部へ1名が進学していることから後継者育成につながっていると考える。

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等 (委員記入欄)
⑪ <input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続	



# 平成27年度 森林環境税活用事業事業評価シート①

(当初・中間・実績)

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	中越
内線	4586

8

①	事業名	・細目事業名：県民参加の森づくり推進費 ・細々目事業名：山の学習支援事業費 ・当該事業名：山の学習支援事業費補助金
	大区分	県民のみなさんの森林への理解と関わりを深め広げる事業
	小区分	森林環境教育

事業費の推移		H23 (決算額)	H24 (決算額)	H25 (決算額)	H26 (決算額)	H27 (決算額)
総事業費 (千円)		9,260	9,064	9,902	11,135	11,981
② 財源内訳	森林環境税	9,260	9,064	9,902	11,135	11,981
	一般財源					
	その他					

③	主な業務内容	総合的な学習の時間などにおいて、年間を通して森林環境学習を実施する小中学校等へ、学校独自の取り組みを進めるために補助する。
---	--------	---

⑦

事業内容 (手段)

総合的な学習の時間において年間を通して森林環境学習を実施する小中学校等へ、学校独自の取り組みを進めるために補助する。

**【補助の仕組み】**

```

graph TD
    A[高知県] -- 定額補助 --> B[市町村、市町村教育委員会]
    B -- 補助or合資 --> C[小中学校]
    
```

○参考(補助金額の上限)

対象児童又は生徒の数	補助金額の上限
50人未満	20万円以内
50人以上～100人未満	40万円以内
100人以上～200人未満	60万円以内
200人以上～300人未満	80万円以内
300人以上	100万円以内

④	現況と課題 (これまでの経過や事業実施の背景)	事業開始年度	平成16年度
	平成7年に策定された木の文化県構想は「木と人との共生」を基本理念として、人と木のより深い関わりと多様なあり方を追求し、木に対する色々な知識を蓄積しながら、木の循環に配慮した行動につなげていくことを狙いとしている。この中の3つの視点の一つである「木を育てる」視点から、森林率全国一を誇る本県において、昔から培われてきた「木の文化」を身につけ活動できる人材を継続的に養成する必要がある。また、木や森に関わる人々の技術や伝統を次代に伝えていくことによって、木の文化県構想の定着を図っていく必要がある。		
⑤	目的とねらい (成果)	森林県である本県の子どもたちに「木の文化」が身に付くような学習への支援を行うことによって、子どもたちが森林への理解や関心を深め、将来に渡って大切な山や森を守っていく心を育むことを目的とする。	
	対象 (誰、何を対象とするのか)	県民 (小中学生等)	
⑥			

# 平成27年度 森林環境税活用事業評価シート②

(当初・中間・実績)

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	中越
内線	4586

8

指標の種類	指標名/算定式	H27目標値	H27中間値	H27実績値	H26実績値
⑧ I 活動指標 (アウトプット)	学校数	60	59	59	59
	算定式				
	算定式				
	算定式				
II 成果指標 (アウトカム)	県民参加人数	5,000	5,272	5,325	4,974
	算定式				
	算定式				
	算定式				
III 効率指標 (事業コスト)	参加した県民一人当たりの経費	2,600	2,466	2,250	2,239
	算定式 事業費÷県民参加人数				
	算定式				
	算定式				

評価の項目	評価の結果	説明
I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input checked="" type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	実施主体は県内の小中学校であり、妥当であった。
⑨ II 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている <input checked="" type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	総合的な学習の時間を利用して、森林・林業体験、木工教室など、「木の文化」の取り組みが行われており、成果はあった。  H26年度 59校→H27年度 59校 (減少 4校 新規 4校)
III 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input checked="" type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	当初目標より、1人当たりのコストは下がった。

総合評価	説明(担当課記入欄)
⑩	<input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D
	平成27年度は59校が事業を活用し、多くの小学校が森林への理解や関わりを深めることができた。 また、昨年度と比べ実施した学校数が変わらないが、新たに実施した市町村は1市町村(北川村)であったが、4市町村(馬路村、香南市、大豊町、栲原町)が実施しなかった。

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等(委員記入欄)
⑪	
<input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続	

# 平成27年度 森林環境税活用事業事業評価シート① (当初・中間・実績)

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	福田
内線	3140

9.1

① 事業名	・細目事業名：県民参加の森づくり推進費 ・細々目事業名：森づくりへの理解と参加を促す広報事業費 ・当該事業名：森林環境税パンフレット等作成委託料
大区分	県民のみなさんの森林への理解と関わりを深め広げる事業
小区分	県民の主体的な活動

事業費の推移		H23 (決算額)	H24 (決算額)	H25 (決算額)	H26 (決算額)	H27 (実績額)
総事業費 (千円)		281	254	330	401	333
② 財源内訳	森林環境税	281	254	330	401	333
	一般財源					
	その他					

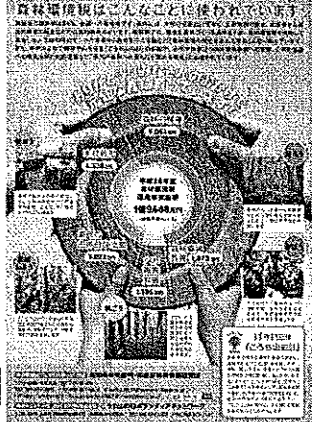
③ 主な業務内容	森林環境税に関する広報素材 (パンフレット等) の作成
----------	-----------------------------

⑦ 事業内容 (手段)  
 広報素材のデザイン及び印刷を委託形式により実施  
 森林環境税の制度や使いみちを県民に一層理解してもらうため、掲載内容やデザイン等の見直しを行う。

④ 現況と課題 (これまでの経過や事業実施の背景)	事業開始年度	平成15年度
平成23年度に行った県民世論調査において、森林環境税の課税期間延長に対する賛成意見が76.5%であったが、前回県民アンケートに比べると7ポイント低下しており、活用内容等も含めて森林環境税の認知度が低下しているものと推測される。 このため、森林環境税の制度や使いみちを県民に一層理解してもらい、同税の趣旨を浸透させていくためには、種々の広報媒体を活用して粘り強くPRしていく必要がある。		

【事業の流れ】

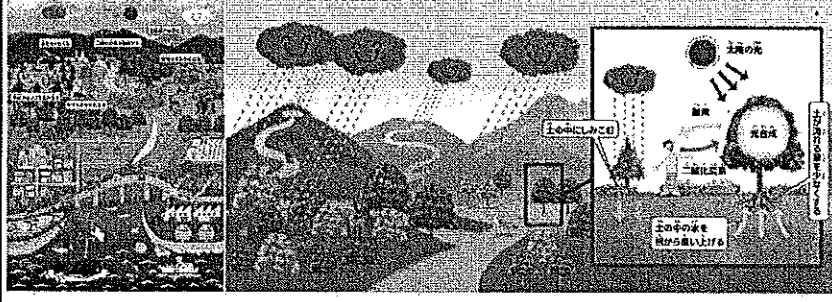
- 1 掲載項目の決定
- 2 原案のデザイン作成
- 3 発注 (委託業者の決定)
- 4 デザイン修正
- 5 成果品受理



チラシ裏面(H27)

⑤ 目的とねらい (成果)	幅広い県民を対象に、森林環境税の目的や使いみちなどや森林の大切さなどをPRすることで、県民の同税への理解を促し、県民の「県民参加の森づくり」への自発的な参加のきっかけとなるツールとして活用することを目的とする。
---------------	---

パンフレット(H27)



⑥ 対象 (誰、何を対象とするのか)	県民
--------------------	----

# 平成27年度 森林環境税活用事業評価シート②

(当初・中間 **実績**)

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	福田
内線	3140

9\_1

指標の種類	指標名/算定式	H27目標値	H27中間値	H27実績値	H26実績値
⑧ Ⅰ 活動指標 (アウトプット)	広報素材の発行回数	1	0	1	1
	算定式				
	算定式				
	算定式				
Ⅱ 成果指標 (アウトカム)	ターゲットを限定した広報素材の発行部数	3,000	0	1	8,000
	算定式				
	チラシの発行部数	10,000	0	20,000	10,000
	算定式				
Ⅲ 効率指標 (事業コスト)	ターゲットを限定した広報素材の一部当たりの経費 (円)	67.0	0	243,000	37.4
	算定式 事業費÷発行部数				
	チラシ一部当たりの経費 (円)	11.1	0	4.5	10.1
	算定式				

評価の項目	評価の結果	説明
⑨ Ⅰ 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input checked="" type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	パンフレット、チラシとも事業受託者は広報実績のある業者であり、誠実に業務を履行することができた。
Ⅱ 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input checked="" type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	山の学習など、様々な森林環境学習において森の働きをわかり易く伝えられるイラストを作成し、無料で使用できるようホームページ等に掲載することとした。 チラシは、平成28年度の森林環境税の活用を紹介する内容とした。 掲載内容については、分かりやすくなるよう心掛けた。
Ⅲ 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い <input checked="" type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	イラストについては、画像データでの成果としたため、費用が高いが、無料での利用であり、著作権も発生しないため、決して高いものではない。

総合評価	説明 (担当課記入欄)
⑩ <input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	広報効果の向上を図るため、平成25年度から対象を明確にした広報活動を展開している。 平成25年度の小学校教諭向けのポケットフォルダに引き続き、平成26年度は中学生をターゲットとしたリーフレットを、平成27年度は山の学習など、様々な森林環境学習において森の働きをわかり易く伝えられるイラストを作成した。 また、県民向けのチラシについても、内容を最新のものに改めたことで、効果の高い広報ができたと考えます。

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等 (委員記入欄)
⑪ <input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続	

# 平成27年度 森林環境税活用事業事業評価シート①

(当初・中間・実績)

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	中越
内線	4586

9.2

①	事業名	・細目事業名：県民参加の森づくり推進費 ・細々目事業名：森づくりへの理解と参加を促す広報事業費 ・当該事業名：森林環境税情報誌作成等実施委託料
	大区分	県民のみなさんの森林への理解と関わりを深め広げる事業
	小区分	県民の主体的な活動

③	主な業務内容	森林環境税やこうち山の日にに関する取り組みなどを掲載した情報誌等の作成を行う。
---	--------	---

④	現況と課題(これまでの経過や事業実施の背景)	事業開始年度	平成19年度
	森林環境税を活用して、県民参加の森づくりを推進して来ているが、若い年齢層や子育て年齢層、児童・生徒にとっては、森や山への理解や関心があまり高くない状況にある。		
⑤	目的とねらい(成果)	(本事業の目的) 森や山に関する情報提供と森林環境税を活用した事業の取り組みなどを、県民に分かりやすく伝えることとによって、森林の大切さなどへの理解と関心を深めてもらうことを目的とする。	
	(意図すべき成果) 全国一の森林県である本県の84%を占める山林の公益的機能の大切さが、県民各層に理解されるとともに、森林環境保全のために役立つ森林環境税の重要性を幅広い県民に認識していただくことを目指す。		
⑥	対象(誰、何を対象とするのか)	県民(20代~40代の女性、県内小中学校の全児童・生徒及びその親)	

②	事業費の推移	H23(決算額)	H24(決算額)	H25(決算額)	H26(決算額)	H27(決算額)	
	総事業費(千円)	6,665	6,665	6,366	6,534	6,399	
	財源内訳	森林環境税	6,665	6,665	6,366	6,534	6,399
		一般財源					
その他							

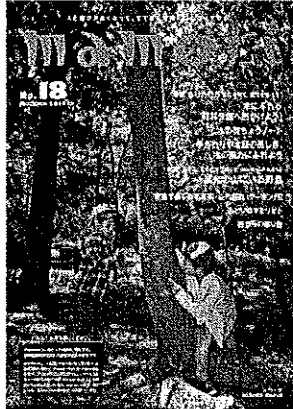
事業内容(手段)

○プロポーザル方式により業者を選定後、委託契約を締結。県民に伝えるべき森林環境税の取り組みや、森や山に関する身近な情報を的確に提供するため、編集会議を開催し、前年度のアンケート結果も参考にしながら誌面づくりを行う。夏(6月)秋(10月)各10万部 計20万部を発行し、県関係機関はもとより、県内の量販店、喫茶店、レストラン、コンビニ、県内外の道の駅、県外事務所など約2,400箇所配布して積極的な発信を行うとともに、全小中学校の全家庭に配布する。あわせて、小中学校の授業等での本誌の更なる活用を働きかける。また、県HPで誌面と同内容を掲載し読者数の増加をはかる。

【平成27年度実績】

- 発行部数  
年2回発行(N017 6月、N018 10月) 各10万部
- 配布先  
県内の量販店、コンビニ、四国の道の駅等約2,400箇所及び県内全小中学校の全家庭

年度	テーマ
平成25年度	森の機能について
平成26年度	川上のことについて
平成27年度	川中のことについて 製材(合板・CLT等)(6月) 木材の種類と利用法等(10月)
平成28年度	川下のことについて 木製品、木造建築物等(6月) 木質バイオマス利用(10月)
平成29年度	総括(平成27年度以降に決定)



mamori N018

平成27年度 森林環境税活用事業評価シート②

(当初・中間 **実績**)

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	中越
内線	4586

9\_2

指標の種類	指標名/算定式	H27目標値	H27中間値	H27実績値	H26実績値
⑧ I 活動指標 (アウトプット)	広報誌発行部数	200,000	100,000	200,000	210,000
	算定式 100,000部×2回				
	広報誌発行回数	2	1	2	2
	算定式 6月、10月				
II 成果指標 (アウトカム)	広報誌読者数	100,000	100,000	100,000	105,000
	算定式 県内小中学校の全家庭及び県内観光施設等				
	算定式				
	算定式				
III 効率指標 (事業コスト)	発行一回当たりの経費	3,210,000	3,199,564	3,199,500	3,266,715
	算定式 総事業費÷年間総発行回数				
	広報誌一部当たりの経費	32.1	32	32	31.1
	算定式 総事業費÷年間総発行部数				

評価の項目	評価の結果	説明
I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input checked="" type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	事業受託者は公募型プロポーザル方式により選定しており、今年度も業務遂行能力の高い民間の広報誌・HP等、作成会社であったため、満足のものであった。 また、事業受託者が独自の情報をもとに、ターゲットとなる読者層が立ち寄りそうな場所への配布もすることができた。
⑨ II 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input checked="" type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	編集委員や県の要望に対して、十分な内容で応えることができ、デザイン・内容とも発注者の意図する誌面を高いレベルで作成できた。
III 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input checked="" type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	作成費用は作成目標どおりであり、コスト面は妥当である。

総合評価	説明(担当課記入欄)
⑩ <input checked="" type="radio"/> A	9年間同業者であるため、事業を円滑に進めることができた。 県下の小学校に配布することで、若い年齢層や子育て世代、児童・生徒に森・山への理解や関心の向上に寄与しており、また、親子で本誌を活用して森林環境学習などを行っていると思われる。 アンケートの内容でも冊子に対して好意的な意見が多くあり、ターゲットとしている年齢層に一定受け入れられていると考える。 また、ホームページ上でもmamoriを閲覧することができるため、より多くの方に愛読されていると思われる。
<input type="radio"/> B	
<input type="radio"/> C	
<input type="radio"/> D	

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等(委員記入欄)
⑪ <input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続	

# 平成27年度 森林環境税活用事業事業評価シート①

(当初・中間・実績)

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	福田
内線	3140

10.1

① 事業名	・細目事業名：県民参加の森づくり推進費 ・細々目事業名：こうち山の日推進事業費 ・当該事業名：こうち山の日県民参加支援事業委託料 ：こうち山の日県民参加公式ホームページ構築委託料
大区分	県民のみなさんの森林への理解と関わりを深め広げる事業
小区分	県民の主体的な活動

事業費の推移		H23 (決算額)	H24 (決算額)	H25 (決算額)	H26 (決算額)	H27 (決算額)
総事業費 (千円)		1,500	1,822	1,625	949	968
② 財源内訳	森林環境税	1,500	1,822	1,625	949	968
	一般財源	[*H25~H26の金額には、作業安全研修を含む]				
	その他					

③ 主な業務内容	1) 幅広く県民からの参加を募る森林保全ボランティア活動の開催 2) 取り組みの広報 3) 公式ホームページの構築
----------	---

⑦ 事業内容 (手段)

1) 幅広く県民からの参加を募る森林保全ボランティア活動の開催  
①ネットワーク団体の活動計画を把握し、HPに計画内容を広報  
②活動実施  
2) 取り組みの広報  
活動成果をHPに公開  
【新規】 3) 公式ホームページの構築

```

graph TD
    A[県] -- 委託 --> B[こうち山の日  
ボランティアネットワーク]
    A -- 委託 --> C[HP制作業者]
    B --> D[ボランティア]
    B --> E[取り組み広報]
    C --> F[HPの構築]
    
```

④ 現況と課題 (これまでの経過や事業実施の背景)	事業開始年度	平成19年度
「こうち山の日」の活動をはじめとする「県民参加の森づくり」を推進するため、県内の森林保全ボランティア団体の統轄機関である「こうち山の日ボランティアネットワーク」を事業実施団体に定め、会員団体が県内全域で森林保全活動を積極的に展開している。森林保全ボランティア活動に対する広報が十分ではないため、近年参加者が減少している。		
⑤ 目的とねらい (成果) 幅広く県民からの参加を募る森林保全ボランティア活動などの取り組みを通じて、幅広く県民に森林への理解と関心を深めてもらうことを目的とする。 また、公式ホームページを本年度構築し、広報手段を充実させる。		
⑥ 対象 (誰、何を対象とするのか) 県民		

平成27年度 森林環境税活用事業評価シート②

(当初・中間・実績)

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	福田
内線	3140

10.1

指標の種類	指標名/算定式	H27目標値	H27中間値	H27実績値	H26実績値
① Ⅰ 活動指標 (アウトプット)	森林保全に関する活動回数	13	0	4	15
	算定式				
	算定式				
② Ⅱ 成果指標 (アウトカム)	県民参加人数	200	0	124	323
	算定式				
	算定式				
Ⅲ 効率指標 (事業コスト)	当事業に参加した県民一人当たり に要する経費(円)	1,755	0	706	2,816
	算定式 事業費÷県民参加人数				
	HP構築に係る経費	806,000	0	880,200	-
算定式					

評価の項目	評価の結果	説明
③ Ⅰ 妥当性 (実施主体・手段等 は妥当か)	<input type="radio"/> A. 妥当である <input checked="" type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	当事業の実施主体は県内の森林保全ボランティア団体の統括組織である「こうち山の日ボランティアネットワーク」で、事業を実施する団体としては適している。
④ Ⅱ 成果 (意図した成果は上 がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input checked="" type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	森林保全ボランティア活動は4回実施した。四国山の日のイベントは香川県で開催された。森林保全ボランティア活動には122人参加し、四国山の日には高知県から2名参加した。
Ⅲ 効率性 (コスト面からみた 効率性はどうか)	<input type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input checked="" type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	県民一人当たりの事業コストは計画より安くなった。理由として、指導費や準備に係る経費を経費に計上しなかったことが要因として上げられる。

総合評価	説明(担当課記入欄)
⑩ <input type="radio"/> A	昨年度に比べ、活動回数及び参加人数が大幅に減少することとなった。要因としては、森林保全ボランティア団体の活動停止や解散により活動を行う団体数が減少したこと、国の交付金事業である「森林・山村多面的発揮対策交付金」を活用して森林保全活動を実施する団体が多くあったが影響していると考えられる。 今後は、各森林保全ボランティア団体等に対して、「こうち山の日の推進」に向けた保全活動の実施を呼びかけるとともに、県民等の参加数を増やすような情報の提供を実施させたい。
<input type="radio"/> B	
<input checked="" type="radio"/> C	
<input type="radio"/> D	

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等(委員記入欄)
⑪ <input type="radio"/> 現状のまま継続	
<input type="radio"/> 事業を拡大	
<input type="radio"/> 事業を縮小	
<input type="radio"/> 休廃止を検討	
<input type="radio"/> 改善のうえ継続	



# 平成27年度 森林環境税活用事業事業評価シート①

(当初・中間 **実績**)

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	中越
内線	4586

10\_2

① 事業名	・細目事業名：県民参加の森づくり推進費 ・細々目事業名：こうち山の日推進事業費 ・当該事業名：こうち山の日推進事業費補助金
大区分	県民のみなさんの森林への理解と関わりを深め広げる事業
小区分	県民の主体的な活動

事業費の推移		H23 (決算額)	H24 (決算額)	H25 (決算額)	H26 (決算額)	H27 (決算額)
総事業費 (千円)		12,687	13,699	11,306	8,874	8,680
② 財源内訳	森林環境税	12,687	13,699	11,306	8,874	8,680
	一般財源	【※上記金額には、山の一日先生派遣事業を含む】				
	その他					

③ 主な業務内容	「こうち山の日」に関する普及啓発事業及び森の案内人の養成に取り組む団体等に対して補助する。
----------	---

事業内容 (手段)

○事業区分  
【森づくり】 ①間伐 ②環境整備 ③植栽 ④竹林整備  
【木使い】 ⑤木工 ⑥木材普及  
【森林体験と教育】 ⑦森林体験 ⑧森林環境教育 ⑨山の一日先生派遣  
※H27年度から⑨山の一日先生派遣事業を補助限度額の60万円以内から75万円以内に変更  
(①～⑧の補助限度額は、従来どおり、25万円以内)

**【補助の仕組み】**

```

graph TD
    A[高知県] -- 補助 --> B[公益社団法人高知県森と緑の会]
    B -- 補助 --> C[団体]
    B -- 補助 --> D[市町村]
    B -- 補助 --> E[個人・団体(山の一日先生)]
    E -- 出前事業実施 --> F[受け入れ団体]
    E -- 出前事業実施 --> G[受け入れ団体]
    
```

④ 現況と課題 (これまでの経過や事業実施の背景)	事業開始年度	平成15年度
人と木の共生を基本理念とした「木の文化県構想」の一環として、県民一人ひとりに森林や山を守る活動の重要性に対する理解と関心を深めてもらうことを制定趣旨として「こうち山の日」が制定された。しかし「こうち山の日」の県民に対する認知度は必ずしも高くないため、今後も、継続的な普及啓発を行う必要がある。		

⑤ 目的とねらい (成果)	「こうち山の日」の制定趣旨に基づいた普及啓発に資する取組を総合的に支援することによって、豊かな森林の恵みに感謝し、森林や山を守ることの重要性に対する理解と関心を深め、県民一人ひとりが森林を守る活動に参加し、また自ら行動することによって山を守り育て次代へと引き継いでいくことを目的とする。
---------------	---

⑥ 対象 (誰、何を対象とするのか)	県民
--------------------	----

# 平成27年度 森林環境税活用事業評価シート②

(当初・中間 **実績**)

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	中越
内線	4586

10.2

指標の種類	指標名/算定式	H27目標値	H27中間値	H27実績値	H26実績値
⑧ I 活動指標 (アウトプット)	事業回数	105	51	153	123
	算定式				
	算定式				
II 成果指標 (アウトカム)	県民参加人数	7,500	1,800	17,388	14,444
	算定式				
	算定式				
III 効率指標 (事業コスト)	参加した県民一人当たりの経費	1,248	/	499	614
	算定式 事業費÷県民参加人数				
	算定式				

評価の項目	評価の結果	説明
I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input checked="" type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	事業実施主体は、「こうち山の日」の制定趣旨に賛同し、積極的に森林や山への理解と関心を深める取組を行える団体であり、様々なプログラムが実施された。
⑨ II 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input checked="" type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	当初目標を大きく上回る実績であった。 <input type="radio"/> 山に日推進事業分 19回 10,988人 <input type="radio"/> 山の一日先生分 134回 6,400人
III 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input checked="" type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	当初目標を大きく上回る実績であったため、県民一人当たりにより要する経費は低く抑えることができた。

総合評価	説明 (担当課記入欄)
⑩ <input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	平成27年度の実績は、山の日推進事業が約11,000人、山の一日先生が6,400人と、昨年の実績を約3,000人上回る結果となった。 また、毎年、事業主体を集めた事業発表会・意見交換会を受託者である「高知森と緑の会」が実施しており、事業主体間での成果や問題点などの情報を共有化することで、年々様々なプログラムが行われることとなり、それに応じて参加者が増加していると思われる。

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等 (委員記入欄)
⑪ <input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続	

# 平成27年度 森林環境税活用事業事業評価シート①

(当初・中間・実績)

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	福田
内線	3140

11

① 事業名	<ul style="list-style-type: none"> <li>細目事業名：県民参加の森づくり推進費</li> <li>細々目事業名：運営委員会等開催費</li> <li>当該事業名：事務費</li> </ul>
大区分	県民のみなさんの森林への理解と関わりを深め広げる事業
小区分	県民の主体的な活動

事業費の推移		H23 (決算額)	H24 (決算額)	H25 (決算額)	H26 (決算額)	H27 (決算額)
総事業費 (千円)		852	692	835	622	733
財源内訳	森林環境税	852	692	835	622	733
	一般財源					
	その他					

③ 主な業務内容	森林環境保全基金の運営を適正に行うため、基金運営委員会の開催等を行う。
----------	-------------------------------------

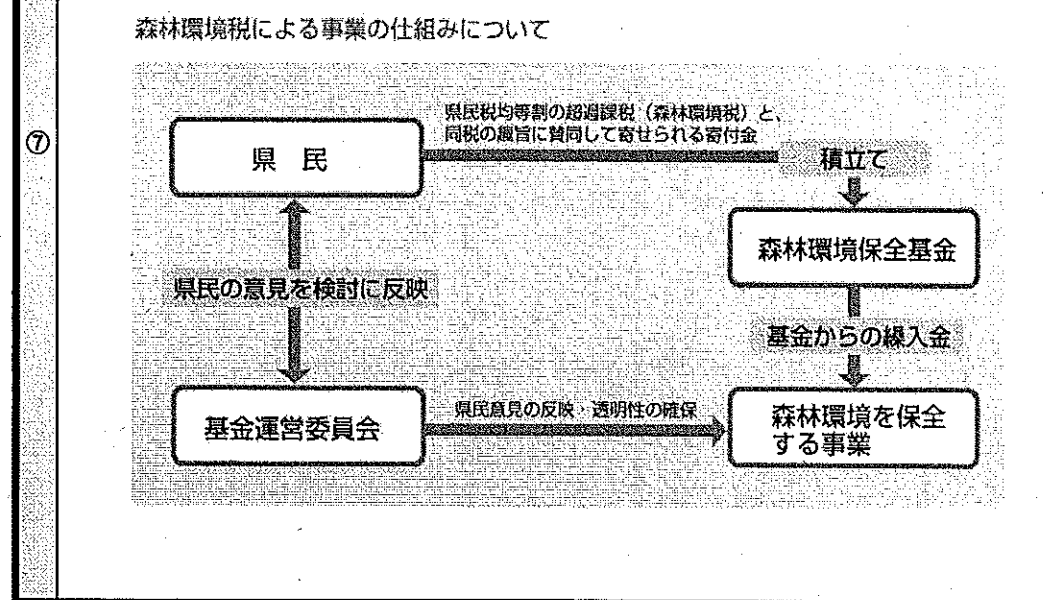
事業内容 (手段)  
森林環境保全基金の運営を適正に行うため、基金運営委員会の開催等を行う。

④	現況と課題 (これまでの経過や事業実施の背景)	事業開始年度
---	-------------------------	--------

【主な取り組み】

- 基金運営委員会の開催 年3回
  - 第1回 平成27年 5月29日 8名
  - 第2回 平成27年11月 6日 8名
  - 第3回 平成28年 1月 7日 9名
- 先進地視察 年1回
  - 平成28年 5月11日 6名

⑤	目的とねらい (成果) 森林環境保全基金の運営を適正に行う。
---	-----------------------------------



⑥	対象 (誰、何を対象とするのか) 県民
---	------------------------

# 平成27年度 森林環境税活用事業評価シート②

(当初・中間・**実績**)

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	福田
内線	3140

11

指標の種類	指標名/算定式	H27目標値	H27中間値	H27実績値	H26実績値
① I 活動指標 (アウトプット)	委員会等開催回数	5	2	4	3
	算定式				
	算定式				
② II 成果指標 (アウトカム)	延べ委員出席者数	50	14	31	27
	算定式				
	算定式				
III 効率指標 (事業コスト)	委員会一日一人あたりに要する経費	14,940	12,142	11,891	11,174
	算定式 報酬+旅費+使用料				
	算定式				

評価の項目	評価の結果	説明
③ I 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input checked="" type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	委員会の審査は適切に行われた。
④ II 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input type="radio"/> A. 上がっている <input checked="" type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	全委員の参加を目標としていたが、達成できなかった。
III 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input checked="" type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	経費は当初目標を下回った。

総合評価	説明 (担当課記入欄)
⑩ <input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	<p>各委員の多忙なスケジュールの中、当委員会に毎回全員が出席頂くのは困難であったが、森林環境税活用事業の審議等について貴重なご意見をいただくことができ、毎回、充実した委員会であった。</p> <p>また、平成27年度は森林環境税に対する見識を深めるための現地視察も実施することができました。</p>

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等 (委員記入欄)
⑪ <input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続	

平成27年度 森林環境税活用事業事業評価シート① (当初・中間・実績)

担当課・係名	木材産業振興課 需要拡大
担当者	川村 典正
内線	4592

12

①	事業名	・細目事業名：県産材需要拡大対策事業 ・細々目事業名：木の香るまちづくり推進事業費 ・当該事業名：木の香るまちづくり推進事業 ：その他事務費
	大区分	県民のみなさんの森林への理解と関わりを深め広げる事業
	小区分	木材利用

事業費の推移		H23 (決算額)	H24 (決算額)	H25 (決算額)	H26 (決算額)	H27 (決算額)	
②	総事業費 (千円)	43,735	46,608	42,871	32,134	33,190	
	財源内訳	森林環境税	43,735	46,608	42,871	32,134	33,190
		一般財源					
	その他						

③	主な業務内容	県内の公共的施設や学校施設、屋外景観施設等において県産材を活用した施設の整備や木製品の導入などに対して支援
---	--------	---

⑦	事業内容 (手段)	<p>①公共的施設整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・補助内容：木質内外装整備等</li> <li>・補助先：市町村、社会福祉法人、医療法人等</li> <li>・補助率：1/2以内 (限度額 5,000千円)</li> </ul> <p>②学校関連環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・補助内容：学校等に木製の机、椅子、遊具などを導入</li> <li>・補助先：市町村、社会福祉法人、学校法人等</li> <li>・補助率：1/2以内 (補助金額25千円以上、限度額5,000千円)</li> </ul> <p>③屋外景観施設等整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・補助内容：木製のバス待合所や休憩所、案内看板等の屋外景観施設整備</li> <li>・補助先：市町村、団体等</li> <li>・補助率：1/2以内 (補助金額50千円以上、限度額5,000千円)</li> </ul>
---	-----------	---

④	現況と課題 (これまでの経過や事業実施の背景)	事業開始年度	平成20年度
	<p>長引く木材価格の低迷等により、間伐などの手入れがされず荒廃森林が増加。木を使うことにより持続可能な山の暮らしを支えるとともに公益的機能の発揮される森づくりの支援が必要。</p> <p>森林環境税2期目の平成20年度から次世代を担う子ども達への木とふれ合う機会の提供及び不特定多数の方が訪れる公共的施設の内外装整備による木の良さの普及を図り需要拡大につなげるため、小中学校等への木製の机、椅子等の導入、公共的施設の内外装整備に対して支援。</p> <p>平成21年度からは、バス待合所整備等にも対象を拡大し、平成22年度に「木の香るまちづくり支援事業」に一本化。</p> <p>平成27年度は、公共的施設3箇所、学校関連施設30箇所、屋外景観施設6箇所に支援を行った。</p>		
	目的とねらい (成果)		
	(目的)		
	木の良さをPRして需要拡大を図り、持続可能な山の暮らしを支える森づくりの支援につなげる。		
	(成果)		
⑤	木材の地産地消の意識が定着し、県産材があらゆるところで積極的に使用されている。		
⑥	対象 (誰、何を対象とするのか)		
	次世代を担う子ども達及び一般県民等		

# 平成27年度 森林環境税活用事業評価シート②

(当初・中間 **実績**)

担当課・係名	木材産業振興課 需要拡大
担当者	川村 典正
内線	4592

12

指標の種類	指標名/算定式	H27目標値	H27中間値	H27実績値	H26実績値
⑧ Ⅰ 活動指標 (アウトプット)	補助金投入金額	34,676千円	33,669千円	33,190千円	32,134千円
	算定式				
	算定式				
	算定式				
Ⅱ 成果指標 (アウトカム)	施設利用者数	124,000人	784,726人	814,726人	187,182人
	算定式				
	整備箇所数	33箇所	38箇所	39箇所	56箇所
	算定式				
Ⅲ 効率指標 (事業コスト)	1人当たりPRコスト	280円	43円	41円	172円
	算定式 33,669千円/784,726人				
	1箇所当たり整備コスト	1,050,788円	886,026円	851,026円	573,821円
	算定式 33,669千円/38箇所				

評価の項目	評価の結果	説明
⑨ Ⅰ 妥当性 (実施主体・手段等は妥当か)	<input checked="" type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	不特定多数の県民が利用する施設や、学校関連施設など子供が多く利用する施設を対象としており、PR効果は高い。
Ⅱ 成果 (意図した成果は上がっているか)	<input checked="" type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	補助対象外となる施設にも木質化の動きが広がっている。
Ⅲ 効率性 (コスト面からみた効率性はどうか)	<input checked="" type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	当初の目標に対し、利用者の多い施設への導入により1人当たりのコストは低く抑えられた。

総合評価	説明 (担当課記入欄)
⑩ <input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	公共的施設については、資料館、老人ホーム、宿泊施設から木製品の導入や木質化について申請があった。また、補助の対象とはならないテレビ局や書店などからも問い合わせがあるなど、木材利用への機運が広まりつつある。 学校関連施設については、机や椅子、木製遊具などの木製品の導入が進んでおり、子供達への「木育」が推進されている。 屋外景観施設については、公衆トイレや案内看板などが設置され、木材を目にする機会が増加している。

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等 (委員記入欄)
⑪ <input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続	

# 平成27年度 森林環境税活用事業事業評価シート①

(当初・中間・**実績**)

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	福田
内線	3140

13

① 事業名	<ul style="list-style-type: none"> <li>細目事業名：木の文化県構想推進事業費</li> <li>細々目事業名：森林・山村多面的機能発揮対策推進交付金</li> <li>当該事業名：森林保全作業安全研修委託料</li> </ul>
大区分	県民のみなさんの森林への理解と関わりを深め広げる事業
小区分	県民の主体的な活動

事業費の推移		H23(決算額)	H24(決算額)	H25(決算額)	H26(決算額)	H27(決算額)
総事業費(千円)		162	424		670	1,420
② 財源内訳	森林環境税	162	424			599
	一般財源	[※H25, H26の作業安全研修はこうち山の日県民参加支援事業でも実施]				
	その他				670	821

③ 主な業務内容	伐木作業等(初級)や車両系林業機械等の操作等(中級)にかかる研修の実施
----------	-------------------------------------

**事業内容(手段)**

伐木作業等や車両系林業機械等の操作にかかる研修を委託研修により実施  
(委託先：(公財)高知県山村林業振興基金)

初級者研修(伐倒木の業務に係る特別講習)定員15名×3回  
学科・実技2日間、現地実習2日(現地実習はいずれか1日に参加)

中級者研修(小型車両系建設機械(整地等)特別教育)定員15名×1回  
学科・実技2日間

中級者研修(小型移動式クレーン運転技能講習)定員10名×1回  
学科・実技3日間

多面的  
国費

H25

H26

H27国内示後

初級2回 29	初級1回 11
中級 小型車両 小型クレーン 20	

---

基金

H25

H26

H27国内示後

初級1回 9	中級 小型車両 14	中級 小型車両 14	初級2回 17
-----------	------------------	------------------	------------

(数字は参加者数)

④	現況と課題(これまでの経過や事業実施の背景)	事業開始年度	平成17年度
	ボランティア団体の中には、搬出間伐を行うところもあり、また、国の森林・山村多面的発揮対策交付金を活用する活動組織も増えている(H25:42団体→H26:59団体)。経験の浅い方が森林で作業する機会も増え、参加者の安全を確保するため、安全研修を充実させる必要がある。		
⑤	目的とねらい(成果)	森林保全ボランティア活動を行う方を対象に、伐木作業等や車両系林業機械等の操作にかかる安全衛生に関する知識や技術の向上を図ることによって、現場の事故防止につなげることを目的とする。	
	対象(誰、何を対象とするのか)	県民	

# 平成27年度 森林環境税活用事業評価シート②

(当初・中間・**実績**)

担当課・係名	林業環境政策課
担当者	福田
内線	3140

13

指標の種類	指標名/算定式	H27目標値	H27中間値	H27実績値	H26実績値
Ⅰ 活動指標 (アウトプット)	作業安全研修	5	3 初級2 中級1	5 初級3 中級2	2 (初級)
	算定式 初級3回、中級2回				
	算定式				
Ⅱ 成果指標 (アウトカム)	作業安全研修受講者数	70	33 初級19 中級14	48 初級28 中級20	29 (初級)
	算定式 初級45人、中級25人				
	算定式				
Ⅲ 効率指標 (事業コスト)	当事業に参加した県民一人当たり に要する経費(円)	22,686	-	18,205	23,078 (初級)
	算定式 事業費÷県民参加人数				
	算定式				

評価の項目	評価の結果	説明
Ⅰ 妥当性 (実施主体・手段等 は妥当か)	<input checked="" type="radio"/> A. 妥当である <input type="radio"/> B. 概ね妥当である <input type="radio"/> C. あまり妥当でない <input type="radio"/> D. 妥当ではない	当事業受託者は、林内作業にかかる安全研修を総合的に実施している県内で唯一の団体であり、妥当であった。
Ⅱ 成果 (意図した成果は上 がっているか)	<input checked="" type="radio"/> A. 上がっている <input type="radio"/> B. 概ね上がっている <input type="radio"/> C. あまり上がっていない <input type="radio"/> D. 上がっていない	安全研修は初級が3回、中級が2回開催され、延べ48名の方が受講された。 <input type="radio"/> 初級(伐倒木の業務に係る特別講習) 28名 <input type="radio"/> 中級(小型車両系建設機械特別講習) 14名 <input type="radio"/> 中級(小型移動式クレーン運転技能講習) 6名
Ⅲ 効率性 (コスト面からみた 効率性はどうか)	<input checked="" type="radio"/> A. 高い <input type="radio"/> B. 概ね高い <input type="radio"/> C. あまり高くない <input type="radio"/> D. 高くない	当初目標を上回る実績であったため、県民一人当たりにより要する経費を抑えることができた。

総合評価	説明(担当課記入欄)
<input checked="" type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C <input type="radio"/> D	森林保全ボランティア活動を行う方を対象とした、伐木作業等や車両系建設機械等の操作に関する安全衛生に関する知識と技術向上を図ることができた。 今後は、会得した知識や技術を、森林保全ボランティア活動に還元することにより、ボランティア活動に参加される方の安全確保に繋げることができると考える。

今後の方向性	見直しの具体的方策に関する意見等(委員記入欄)
<input type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 事業を拡大 <input type="radio"/> 事業を縮小 <input type="radio"/> 休廃止を検討 <input type="radio"/> 改善のうえ継続	